

令和6年度 第2回 北星中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2024年11月11日（月）14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 北星中学校 校長室
- 3 出席委員 長谷川 良樹、米倉 保之、古山 照美、横田 明、
野中 美恵子、澤田 ひろ子、大野 利幸、金原 正人
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 野中 崇（校長）、池田 隆宏（教頭）、矢入 信典（教務主任）
村松 美沙（CSディレクター）
- 6 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 村松 美沙
- 9 議長の選出

司会（教頭）から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、古山会長から野中委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）休日部活動の地域移行について
- （2）TEAM北星との連携について
- （3）その他

11 会議記録

司会（教頭）から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）休日部活動の地域移行について

議長（野中委員）の指示により、校長（野中）から、別紙資料に基づき「休日部活動の地域移行」について説明があった。休日部活動の地域移行の実施は、令和8年9月からで現小学6年生が中学2年生になった9月からである。対象となる初生小・葵西小の5、6年生に中学で部活に入りたいかのアンケートを取ったら8割以上が部活に入りたいと回答した。将来、北星中学校区で部活動を頑張りたい子どもたちのために「持続可能な活動」ができるよう学校と地域が連携を図り、準備を進めていきたいと考えている。

<御意見>

- ・中学校地域クラブの活動場所や教員がクラブの一員として指導できるのか。（長谷川委員）
浜松市では場所は学校の施設を利用してOKとしているが、教員がクラブの一員として指導できるかは兼職兼業届を出さなければならず、まだ検討中である。新人大会・中体連の大会は教員も手当てを出して引率できるようにしようとしているが、まだ詳細は決まっていない。（校長）
- ・「中学校地域クラブ」と「地域クラブ」の違いとは？（澤田委員）
「中学校地域クラブ」は、市教委に申請し、主に中学校の部活動単位とする団体であり代表は父母会などである。「地域クラブ」は、浜松市が認定する社会体育の特定団体で

あり、どの学区をまたいでも自由で指導者も同様である。

掛川市、静岡市は行政主導で先に地域クラブ化がスタートしているが、浜松市は部活が盛んな地域で難しく、太枠を示した上で順次詳細が話し合われている状況である（校長）

- ・令和6年第2回地域クラブ活動協議会の議事録では、20%の教員が地域クラブの指導者を希望すると回答している。（金原委員）

教員が自分の勤めている学校で指導したいのか、自分が住んでいる居住区の学校で指導したいのかの内訳が載っていないので何ともいえない。しかし、本来は部活の延長として自分の勤めている学校で指導したいと思いがあ、議論している最中である。全体的に指導者が足りない状況である。（校長）

- ・「学校の部活」と「中学校地域クラブ」は組織が変わるため別物という考え方だと思うが、土日の大会等ではどちらが主導をとるのか。（大野委員）

教員が引率できる中体連や新人大会ではスタメンは教師が決めるが、練習試合は中学校地域クラブになり、現場としてはコミュニケーションエラーが発生する。指導方法について、先生は市や学校に守られているが、指導者は保障がないため、指導者向けの勉強会や、認定制度などがあると、両者（教える側/教えられる側）ともに安心ではないか。

（金原委員）

指導者を守ってあげるのが大切である（米倉委員）

- ・指導者は中学校地域クラブで事故があった時の身分的保障があるのか。（澤田委員）

保険への加入や指導者への教育、複数体制での指導、コンプラ研修は実施予定である。指導する側は責任があり、保護者や生徒への対応が本当に大変だと感じる。善意で地域の指導者になっていただく方は少ないのではないかと感じる。（校長）

- ・「部活」と「中学校地域クラブ」の指導方法の連携はどうしているのか。（澤田委員）

先輩保護者から戦術と人選については、クラブは口出ししないと引き継いでいる。指導方法が先生と違うことを言っていたら、先生を優先してよいと子供たちには話している。そのため、女子バレー部の地域クラブは、部活の補助的機能として引き継いでいる。部活全員が加入しているわけではないため、ゲーム練習ではなく基礎練習を中心に行っている。また、自分の子が卒業すると次の保護者に指導者を引き継ぐため、責任問題も含めやり方を変えて引き継ぐ必要があると感じている。（金原委員）

- ・中学校地域クラブは作ることとはできるが、継続しにくいのではないのか。子どもたちが犠牲になるし、毎年次の代で協議が必要になる。（大野委員）

指導できる人がいなければ存続しなくても良いと考えている。浜松市の地域クラブに入りたいかというアンケートでは50%だった。部活、地域クラブ、民間クラブ等、子ども達の選択が増えることは良いこと。参加するメンバーによって練習メニューを変えるなど臨機応変に対応する必要がある。チームスポーツは特に、部活メンバーとの練習が必要と感じている。（金原委員）

子供の立場からすると平日部活動で練習して、週末の対外的な試合に向けて平日頑張っている。新人大会や中体連だけではなく、それに向けたチーム力をあげる毎週末の練習試合については地域クラブに任されてしまうと戦術や人選の運用が学校主体であれば、休日の練習試合にも教員が引率しないと回らなし、実質的に難しい気がする。（大野委員）

新人大会、中体連に向けた練習試合は教員が引率できないということで、部活に対する教師のモチベーションの維持も難しい。(校長)

- ・学校としては全部活に対して中学校地域クラブを取り入れたいと考えているのか。

(大野委員)

すべての部活で作る必要はないと思っている。保護者・生徒のニーズがあったときに作ればよいと思っている。やる気のある熱心な子供や保護者はいるが、指導者不足である。

(校長)

後付けで良ければ作りやすいし、父母会等で次年度の計画として決めていくしかないと思う。(大野委員)

- ・他の地域の規約を参考にしながら、規約に指導者側を守ってあげる文言をいれることも大事である。(大野委員)

- ・中学校地域クラブは意見を言える窓口はあるのか。(野中委員)

大きな窓口として教育委員会指導課があるが、学校に相談してもらってよい。(校長)

- ・休日の部活動の地域移行について、できるところから移行という考えでよいのか。

(長谷川委員)

できるところから移行でよいし、移行できなければ土日の部活がなくなる。今後色々と決まっていくと思うし、先行事例を見ながら後付けでやっていく。

- ・部活の地域移行については、先生の働き方改革のためには理解できるが、根本的に生徒のことを考えると良い事なのかと感じてしまう。(横田委員)

- ・休日部活動の地域移行に伴い、土日の居場所がない子に対して地域も関わらないといけないと感じる。(古山委員)

(2) TEAM北星との連携について

議長(野中委員)の指示により、別紙資料に基づき、教頭(池田)から「TEAM北星との連携」について、校長(野中)から「令和の学校」について説明があり、委員から、以下の発言があった。

<御意見>

- ・ブログや文化発表会で流れてきたスクーンの写真が生徒の後ろ姿が多いと思ったがなぜか。(長谷川委員)

意図的でないが、ブログでは後ろ姿を載せていることが多い。

- ・本年度の文化発表会でライブ中継しなかったのはなぜか。(金原委員)

学校は流したかったが、著作権の関係で業者からNGが出たためである。

- ・いじめの認知件数は数値化しているのか。(米倉委員)

生徒はいじめアンケートを1学期は紙で2学期はタブレットで実施し、数値化している。アンケートで報告があった場合は、すぐに対応し3か月経過後もう一度確認する。昨年度のものは解消。また、週1回いじめ対策委員会を実施し、常時確認している。

- ・自傷行為する子を何とかしてほしい。(金原委員)

SS、養護教諭に相談する子が多い。最善策で対応している。

- ・「令和の学校」を読むと、不登校対応やいじめ対策等の対応がすごく素晴らしいと感じた。虐待についてはどう対応しているか。(横田委員)

虐待と思われる場合は保護者に確認せず、すぐに児相に連絡している。

・部活の件で地域の人材を見つけるのをどう考えているか。(米倉委員)

来年5月の自治会長が集まる学校教育後援会で説明し、回覧板で募集する等検討する。

(3) その他

1. 夢育やらまいかCS加算分について

前回の会議で報告した「夢育やらまいかCS加算分」について、別紙のとおり変更になったことを説明し、承認いただいた。

2. 学校運営協議会自己評価表の提出について

本日、自己評価表を配布したため年内に学校に提出いただきたい。委員分を学校でまとめ、さくら連絡網でまとめたものを確認いただき、2月末に北星中学校運営協議会として教育総務課へ提出する。

司会(教頭)から、次回会議は、2025年3月12日(水)14時から校長室で開催する旨の報告があった。また、来年度の学校支援コーディネーターについて推薦したい人材があれば、2月中に学校に連絡いただきたいと報告があった。